

企画展「海の美の発見ーふくしまの浜のVIVIDー」

Temporary exhibition, "Grace in living of fishermen,"



▲ギャラリートーク Gallery talk

現在、大量生産・大量消費のシステムの中で暮らす私達の身のまわりには、たくさんの方が規格化されたモノがあふれています。しかし、高度経済成長以前、各地には、その風土にあった様々な造形物が職人の手によって作られていました。

この企画展「海の美の発見ーふくしまの浜のくらしー」では、「用いる」という視点で作られた道具にも「美」が宿るのではないかという視点から、特別な作家ではなく無名の職人によって作られた漁具等や、大漁祝いの晴れ着、絵馬、祭式用具等を十月十七日から十一月十九日までの約一ヶ月間展示し、その中から読みとれる漁民達の折りや願いの形を紹介しました。

まず、展示室に入

って観覧者の目にとまったのは、大漁祝いの晴れ着である方祝二十二点（県内外の資料：いわき市周辺の資料、千葉県房総地方の資料、宮城県三陸地方の資料）だったのではないかと思います。この方祝（マイワイ）とは大漁の祝いに船主が船方に配る晴れ着のことで、北は青森県から、南は静岡県までの太平洋沿岸にしか分布しておらず、それぞれの地域の絵柄の違いをご覧いただけただけではないかと思えます。また、福島県に点在する海に関する絵馬（船絵馬二点、地引図絵馬一点、大漁旗七点、そして主に福島県の沿岸漁業で使われていた一二人乗りの伝馬船（磯船）やその漁で使われていた漁具等、約二〇〇点を所狭しと展示しました。その中で、当館としては初めて県指定の重要文化財五點（房総地方の方祝四点と地引図絵馬一点）を展示し、美術的にも歴史的にも、価値の高い資料として公開することができました。

加えて、水族館機能をフルに活用して、実際、沿岸漁業で獲られてきたマダコやマアナゴ、ホウボウや山の神の供物としてあげていたケムシカジカ他を、タコツボなどの漁具と共に展示しました。このように今回の企画展では、博物館の機能と当館の機能をうまく融合させた展示ストーリーが構成できたのではないかと思います。また、期間中、ギャラリートーク（展示解説）も毎週日曜日に行い、多くの方々に、より深い内容を理解いただ

◀展示室風景
Scene of exhibition room

けたのではないかと思います。最後に当企画展の感想をアンケートから引用して紹介します。

「アクアマリンにきたのは二回目ですが、企画展は毎回趣向をこらして大変楽しみです」。「山のものが海の生活をみたので、大変おもしろく勉強になった」。「こちらの風俗を知ることができ、大変有意義だった」。「もう少し映像がほしい」。「展示品に対しての解説をもう少し詳しくしてほしい」

このような御意見を踏まえ、今後も入館者の皆様が興味を抱くような企画展、そして工夫を凝らした展示を展開していきたいと考えています。

（学習交流課 真壁敬司）